

WE
LOVE



April 2024
地域医療支援学レター

vol.
47



CONTENTS

- 活動報告
- セミナー報告
リレートーク第47回
- 浜田の診療所に来てください!

浜田市国保診療所連合体 波佐診療所
所長 佐藤 優子 先生

ACTIVITY REPORT 活動報告

令和5年12月10日(日)13:00~17:30

第4回しまね総合診療の集い

【場 所】島根大学医学部ゼブラ棟2階 だんだんカンファレンス
【参加者】39名(対面 26名 Web 13名)

第1部は、医学科4年生の学生がポर्टフォリオの発表を行った。慢性疾患から生じる苦悩に対して、医師の役割は「持続する関心と寄り添うこと、家庭医そのものの存在が治療になることを学んだ」と報告があった。

第2部は、島田直英先生、村上航太郎先生、青木光先生、根本卓也先生が、自身が成功した症例及び専攻医が悩みがちな症例等を報告頂き、有意義なディスカッションが行われた。

第3部は、飯島慶郎先生にお話し頂いた。先生は、「不定愁訴で苦しむ人は沢山いる。往々にして身体的疾患が見逃され深刻な問題となるので、「総合診療専門医・家庭医」の視点が必要になってくる」と力説された。

今回のセミナーは、全て専攻医の先生方が主体となって内容構成を立案されたものである。この若く熱い風を引き続き全力で支援して行きたい。



令和6年2月10日(土) 9:00~14:45

第14回中四国地域医療フォーラム

【テーマ】地域医療教育のエッセンスを考える
【場 所】ANAクラウンプラザホテル米子 2階「飛鳥」
【主 催】鳥取大学医学部地域医療学講座、鳥取県福祉保健部健康医療局
医療政策課鳥取地域医療支援センター
【参加者】中四国各県の地域医療に関わる大学関係者・県行政担当者・
地域医療支援センター職員、地域卒業医・地域卒業生

島根大学からは、教員4名と地域卒等の学生2名が参加した。午前の部は「推し」の地域医療教育を語ろう」というテーマで9大学が発表を行った。当大学からは堀田優希助教が3つの注目点を「島根の地域医療卒前教育ハイライト(押し?)」として紹介した。

続いて各大学の発表を受けて10グループに分かれ、ワールドカフェ形式で「テーマ①地域医療教育(卒前)で一番大事なことは何か?、グループを代わりテーマ②それを実現するためには、どうすればよいのか?(方略・評価)、元のグループにかえりテーマ③は①②のブラッシュアップ」を行った。島根大学でも試してみようというヒントをいくつか頂いた。

午後からは地域卒業医によるキャリア講演が行われた。



令和6年2月23日(金)~2月24日(土)

第5回しまね総合診療の集い (総合診療合宿)

【場 所】かなぎウェスタンライディングパーク
【参加者】25名(うち医学生3名について参加支援を行った)

・若手医師による「それぞれの1日と総合診療のやりがい」レクチャー(プレゼンター: 遠田健一先生、波多野拓也先生、加藤輝士先生)
・「総合診療の卒前・卒後教育」についてのディスカッション(初期研修医、専攻医、指導医他参加者全員)
・指導医による「総合診療レクチャー」(プレゼンター: 長尾大志先生、助永親彦先生、佐藤優子先生)

レクチャーおよび意見交換会を通して総合診療の実践についての理解を深めた。専攻医・若手医師は自身の日常の振り返りになり、指導医は若手のニーズを把握し効果的な教育プログラムを構築する為の良い機会となった。

また、今まで会った事のない参加者が対面での交流を通して、島根で総合診療をしている仲間意識を深める事が出来た。



令和5年12月14日(木) 9:40~16:10

ドクターキャリア形成特別講義

【場 所】島根大学医学部臨床大講堂
【対 象】島根大学医学部医学科4年生
【主 催】島根大学医学部地域医療支援学講座 島根県医師会

臨床実習入門特別プログラムの一環で島根県医師会との共催にてキャリア教育を行った。

午前の部では広島大学運沼直子先生を迎え、「ライブイベントとキャリア」について医師夫婦の実際にあり得るトラブルシナリオに対してグループワークを行った。どのグループも活発に意見を交わし、性別による考え方の違い等お互いの意見を尊重し、新たな視点を獲得しているようであった。

午後からは、キャリアモデルとして3名の医師にお話し頂いた。ロールモデルとしてとても参考になった。

続いて、特別講演としてWHO 藤森奈邦子先生にお話し頂いた。現在の地位に就くまで、挫折を味わいながらも、研究を続けてきたことを聞き、同じ医師としてとても勇気づけられた。

学生からの「参考になった」と感想もあり、今後も学生にとって有意義となるようなキャリア教育を継続したい。



令和6年2月21日(水) 18:00~19:00

令和5年度第2回えんネット交流会

【場 所】島根大学医学部みらい棟2階 共通カンファレンスI
【参加者】学生 2名 医師 6名

令和5年度第2回「えんネット交流会」を、学生2名を含む8名で行った。お子様連れの参加者もあり賑やかで和やかな会となった。

はじめは各自のプロフィールに、「1週間休みがあたら何をしたか」を加えて自己紹介を頂いた。休みがあたら「旅行をしたい」や、「買い物やゆっくりしたい」等と妄想は膨らむばかりであった。その後、育児中の医師からは病児保育や、自分時間の取り方、知識のアップデートのコツについてそれぞれの工夫を聞かせて頂いた。

学生からは出産のタイミングや、男性として支えるにはどうしたらよいかという質問があり、意見が交わされた。

今回も忙しい中、集まっていた方に感謝し今後も継続していきたいと考える。

就業後の1時間、ふだんはなかなか話せない方とも、この交流を切っ掛けに、新たなつながりが生まれるかもしれません。気になる方はぜひご参加ください。



令和6年3月4日(月)~3月7日(木)

令和5年度地域医療体験実習I (春季地域医療実習)

【報告会】令和6年3月8日(金)14:00~16:00(Web開催)
【参加者】実習:学生22名 報告会:学生18名 関係者:15名

島根県7圏域の保健所に実習計画を立案頂き、病院15施設、診療所9施設、個人医院4施設、地域包括支援センター、義肢装具製作所、訪問看護ステーション等、関係機関のご理解とご協力を得て実習を終えた。

低学年の参加者が主で、地域に出かけるのは初めてという学生も多かった。保健所長からは圏域の医療や保健・介護連携、課題等の説明を受け、実習施設では地域における役割・特徴についてお話を伺った。病院や診療所では外来診療の見学の他に、訪問診療や訪問看護・リハビリテーションに同行し、地域住民の生活や多職種連携の実践を学ばせて頂いた。医師の立場だけではなく、そこに暮らす住民に思いを馳せる学生も多く、今後の座学あるいは地域医療実習に繋がるものを感じた。

報告会は保健所や病院関係者の方にも参加を頂き、学生達の新鮮な学びや気付きにご助言を頂いた。



セミナー報告 SEMINAR REPORT



地域医療セミナー



地域の小規模多機能病院の役割について ~東日本大震災から12年の記録~

【実施日】令和5年12月18日(月)18:00~19:00
【講 師】気仙沼市立本吉病院 院長 齊藤 稔哲 先生
【参加者】9名

概 要

先生は、これまで医療に関わってきて思うことを次のようにまとめられた。

「死が怖くて進んだ医療の道。生きる人との関わりの面白さ、やりがい、奥深さを感じるようになった。将来を見通して活動することも大切。見通しきれない将来に悩むよりも今現在の環境に耳を敏くすることも大切。」

ご自身が病を得られ、「今まで癌の患者さんに接していた自分と今の自分では接し方が変わった。共感の幅が広がった。この広がった幅から聞こえてくる需要に応える。」と話された。「『ある』を支えるのが医療だと考えていたが、終わりが『ある』に対して、どうあるのか。どう『ありがたいのか』と一緒に考え支えるのも医療の役割であると考えようになった」と付け加えられた。

先生が語られる言葉に実践から生まれる知を感じずにはいられない。

先生の言葉の先に患者さんの笑顔が見える。



君たちはどう生きるか 離島から内視鏡トッパナイフを 目指すキャリアの一例

【実施日】令和5年12月18日(月)12:15~12:45
【講 師】島根大学医学部内科学講座 消化器内科 医科医員 高橋 佑典 先生
【参加者】19名

概 要

先生は島根大学を卒業後、松江市立病院で初期研修を行われた。3年目は隠岐病院で研修を積まれ、内視鏡検査の技術を磨かれた。4年目には自信をもって大学での研修を開始されたが、大学での検査の多さには圧倒されたそうである。島根県内複数の病院で働き、その間に全国学会での発表、英語論文の執筆、専門医取得と着実に前進されている。消化器内科を目指されたのは、消化管出血の患者さんとの出会いにあり、症例毎に内視鏡の面白さに魅了されたそうである。更に「情熱大陸」で消化器内科医の特集を見て決意を固めたとのことである。

キャリアを積む上で①新しい環境に挑戦し成長を続けること②メンターを見つけること③仲良くすること④自分の頑張れるものを見つけることの大切さを提言された。

学生達も自分達の近い将来をイメージしやすかったのではないかと感じた。



究極の救急医療「総合救急診療」

【実施日】令和6年1月26日(金)18:00~19:00
【講 師】国家公務員共済組合連合会 虎の門病院 救急科 統括部長 軍神 正隆 先生
【参加者】46名

概 要

軍神先生は、アメリカの研修留学時代に、救急医療の崩壊を目の当たりにしながら診療を行われた。そこで培われた経験から「病歴聴取と身体診察がメインの総合救急診療をマスターできれば、あらゆる分野の救急医療に対応できる」と熱弁された。また、アメリカの救急医療の歴史についても説明され、1970年代の医療崩壊で、ノンホスピタリスト(救急看護師・救急救命士等)の養成や症状・徴候を中心としたEBMの確立をその対策として行い、現在の総合救急診療システムが構築されたとのことであった。

最後に今後の医学教育の在り方について触れられ、シミュレーション教育を最大限に利用し、総合救急診療教育ツールをパッケージ化する、更にハイファイシミュレーション(VR・AR・FSS)と連動することが出来れば、効果的な人材育成ができるのではないかと力説された。

Career Seminar



緩和ケアへの道と魅力

【実施日】令和6年1月24日(水)12:15~12:45
【講 師】島根大学医学部附属病院 緩和ケアセンター長 橋本 龍也 先生
【参加者】23名

概 要

先生は全身管理・集中治療のできる診療科として麻酔科に入局された。大学院修了後、臨床に戻られ、麻酔と並行してペインクリニックを担当された。先生はそのような臨床経験から緩和ケアを任せられる機会があり、チーム医療など緩和ケアの魅力に目覚めやがいを感ぜられたそうである。

その後、当院に緩和ケアセンターが設立されると同時に専任医師として異動され、2022年から緩和ケアセンター長を務めておられる。

緩和ケアの魅力は「患者さんが人生の最期を良い人生だったと思える過ごし方ができるように寄り添えること、自分自身が人として成長できること」等5つを挙げられた。治すことが医療の全てではなく、治らないとなった時に患者さんのQOLを高めることが医療の本質であり緩和ケアのやりがいであると話された。学生達が深く傾きながら話を聴く姿が印象的だった。



高齢者医療とポリファーマシー

【実施日】令和6年2月28日(水)18:00~19:00
【講 師】やわらぎクリニック(奈良県) 院長 北 和也 先生
【参加者】15名

概 要

ポリファーマシーは日本語訳では「多剤併用」であるが、先生はポリファーマシーの研究報告等を示し「5剤以上」「その患者さんにとって必要以上に服用している状態」と定義された。

ポリファーマシーに陥る要因として「患者・医療者・環境」の3つを挙げられ、複雑に絡み合う具体例をお話し頂いた。患者さんの価値観の変化や多様性にも理解を示すことの必要性を学んだ。

最後に7つのメッセージを頂いた。①高齢者はマルチモビリティからポリファーマシーに陥りやすい②処方カスケード・PIMs・ポリドクターに注意③副作用・PMIsはbiomedicalのみならず、psycho-socialへの影響を知ろう④そのために多職種視点・知恵を借りよう⑤クスリもリスクだけ⑥過度な「クスリもリスク」もリスク!⑦減薬は目的ではなく、あくまでも1手段であることを心得る。

患者さん主体の診療風景が見えるお話であった。



バスケットマンから整形外科医、 そしてスポーツ医へ

【実施日】令和6年2月14日(水)12:15~12:45
【講 師】島根大学医学部整形外科科学講座 助教 門脇 俊先生
【参加者】30名

概 要

テーマにバスケットマンとあるように、先生は小学校5年生の時にミニバスケットと出会い、今も現役プレイヤーである。『スラムダンク』連載のど真ん中世代で、バスケットは「生涯の友と呼べるスポーツである」と話された。お話は先生のバスケットに対する情熱とスポーツ医としての情熱が溢れんばかりで、我々もまた心揺さぶられ魅了された。

先生がスラムダンクで一番好きなセリフは「オヤジの栄光時代はいつだよ...全日本の時か?俺は...俺は今なんだよ!!」である。先生は「その人のピークは常に『今』であること。自分の『今』を全力で頑張るのが選手である」「スポーツ医学は選手がこのような気持ちを持って戦っているのをいかに支えるかが大事である」と話された。

バスケットをよこな愛し、ササノオマジックのスポーツ医を12年された先生であるからこそ語られる言葉であった。

活動報告

令和5年12月10日(日)13:00~17:30

令和5年12月14日(木)9:40~16:10

第4回しまね総合診療の集い

【場 所】島根大学医学部ゼブラ棟2階 だんだんカンファレンス
 【参加者】39名(対面 26名 Web 13名)

第1部は、医学科4年生の学生がポर्टフォリオの発表を行った。慢性疾患から生じる苦悩に対して、医師の役割は「持続する関心と寄り添うこと、家庭医そのものの存在が治療になることを学んだ」と報告があった。

第2部は、島田直英先生、村上航太郎先生、青木光先生、根本卓也先生が、自身が成功した症例及び専攻医が悩みがちな症例等を報告頂き、有意義なディスカッションが行われた。

第3部は、飯島慶郎先生にお話し頂いた。先生は、「不定愁訴で苦しむ人は沢山いる。往々にして身体的疾患が見逃され深刻な問題となるので、『総合診療専門医・家庭医』の視座が必要になってくる」と力説された。

今回のセミナーは、全て専攻医の先生方が主体となって内容構成を立案されたものである。この若く熱い風を引き続き全力で支援して行きたい。



ドクターキャリア形成特別講義

【場 所】島根大学医学部臨床大講堂
 【対 象】島根大学医学部医学科4年生
 【主 催】島根大学医学部地域医療支援学講座 島根県医師会

臨床実習入門特別プログラムの一環で島根県医師会との共催にてキャリア教育を行った。

午前の部では広島大学蓮沼直子先生を迎え、「ライブイベントとキャリア」について医師夫婦の実際にあり得るトラブルシナリオに対してグループワークを行った。どのグループも活発に意見を交わし、性別による考え方の違い等お互いの意見を尊重し、新たな視点を獲得しているようであった。

午後からは、キャリアモデルとして3名の医師にお話し頂いた。ロールモデルとしてとても参考になった。

続いて、特別講演としてWHO進藤奈邦子先生にお話し頂いた。現在の地位に就くまで、挫折を味わいながらも、研究を続けてきたことを聞き、同じ医師としてとても勇気づけられた。

学生からの『参考になった』と感想もあり、今後も学生にとって有意義となるようなキャリア教育を継続したい。



令和6年2月10日(土)9:00~14:45

第14回中四国地域医療フォーラム

【テーマ】地域医療教育のエッセンスを考える
 【場 所】ANAクラウンプラザホテル米子 2階「飛鳥」
 【主 催】鳥取大学医学部地域医療学講座、鳥取県福祉保健部健康医療局 医療政策課鳥取県地域医療支援センター
 【参加者】中四国各県の地域医療に関わる大学関係者・県行政担当者・地域医療支援センター職員、地域卒業医師・地域卒業学生他

島根大学からは、教員4名と地域卒等の学生2名が参加した。午前の部は「“推し”の地域医療教育を語ろう」というテーマで9大学が発表を行った。当大学からは堀田優希江助教が3つの注目点を「島根の地域医療卒前教育ハイライト(押し?)」として紹介した。

続いて各大学の発表を受けて10グループに分かれ、ワールドカフェ形式で「テーマ①地域医療教育(卒前)で一番大事なことは何か?、グループを代わりテーマ②それを実現するためには、どうすればよいのか?(方略・評価)、元のグループにかえりテーマ③は①②のブラッシュアップ」を行った。島根大学でも試してみようというヒントをいくつか頂いた。

午後からは地域卒業医師によるキャリア講演が行われた。



令和6年2月21日(水)18:00~19:00

令和5年度第2回えんネット交流会

【場 所】島根大学医学部みらい棟2階 共通カンファレンスI
 【参加者】学生 2名 医師 6名

令和5年度第2回「えんネット交流会」を、学生2名を含む8名で行った。お子様連れの参加者もあり賑やかで和やかな会となった。

はじめは各自のプロフィールに、「1週間休みがあったら何をしたいか」を加えて自己紹介を頂いた。休みがあったら「旅行をしたい」や、「買い物やゆっくりしたい」等と妄想は膨らむばかりであった。その後、育児中の医師からは病児保育や、自分時間の取り方、知識のアップデートのコツについてそれぞれの工夫を聞かせて頂いた。

学生からは出産のタイミングや、男性として支えるのにはどうしたらよいかという質問があり、意見が交わされた。

今回も忙しい中、集まっていたただに感謝し今後も継続していきたいと考える。

就業後の1時間、ふだんはなかなか話せない方とも、この交流を切っ掛けに、新たなつながりが生まれるかもしれません。気になる方はぜひご参加ください。



令和6年2月23日(金)~2月24日(土)

第5回しまね総合診療の集い
(総合診療合宿)

【場 所】かなぎウェスタンライディングパーク
 【参加者】25名(うち医学生3名について参加支援を行った)

- ・若手医師による「それぞれの1日と総合診療のやりがい」レクチャー
(プレゼンター: 遠田健一先生、波多野拓也先生、加藤輝士先生)
- ・「総合診療の卒前・卒後教育」についてのディスカッション
(初期研修医、専攻医、指導医他参加者全員)
- ・指導医による「総合診療レクチャー」
(プレゼンター: 長尾大志先生、助永親彦先生、佐藤優子先生)

レクチャーおよび意見交換会を通して総合診療の実践についての理解を深めた。専攻医・若手医師は自身の日常の振り返りになり、指導医は若手のニーズを把握し効果的な教育プログラムを構築する為の良い機会となった。

また、今まで会った事のない参加者が対面での交流を通して、島根で総合診療をしている仲間意識を深める事が出来た。



令和6年3月4日(月)~3月7日(木)

令和5年度地域医療体験実習I
(春季地域医療実習)

【報告会】令和6年3月8日(金)14:00~16:00(Web開催)
 【参加者】実習: 学生22名 報告会: 学生18名 関係者: 15名

島根県7圏域の保健所に実習計画を立案頂き、病院15施設、診療所9施設、個人医院4施設、地域包括支援センター、義肢装具製作所、訪問看護ステーション等、関係機関のご理解とご協力を得て実習を終えた。

低学年の参加者が主で、地域に出かけるのは初めてという学生も多かった。保健所長からは圏域の医療や保健・介護連携、課題等の説明を受け、実習施設では地域における役割・特徴についてお話を伺った。病院や診療所では外来診療の見学の他に、訪問診療や訪問看護・リハビリテーションに同行し、地域住民の生活や多職種連携の実際を学ばせて頂いた。医師の立場だけではなく、そこに暮らす住民に思いを馳せる学生も多く、今後の座学あるいは地域医療実習に繋がるものを感じた。

報告会は保健所や病院関係者の方にも参加を頂き、学生達の新鮮な学びや気付きにご助言を頂いた。

